

09/09/17,18環境史WS

信越秋山地域
—ケーススタディへの「深い」理解—

中部班
寺島 宏貴

5巻『山と森の環境史』のねらい

- 日本列島における山や森と人間活動のかかわり
→近世～現在：東北地方～中部地方の山村に顕著な実像

近世・近代：都市近郊にはすでに大径木が生産できる天然林はない

→かなり遠隔地の山村に木材生産の場を確保しなければならない。

中部・東北の奥山の山村・・・焼畑耕作とともに、材木生産，木地製作，狩猟，採集などの生産技術体系を複合→人々の生活が成立

- 山村の生物資源:

毛皮や肉, 薬種などのために捕獲される大型哺乳類,
鷹狩りに使用するハイタカ・ツミ

食料→山菜, 茸

生活資材(衣類その他)→植物

→これら, 奥山に位置する山村の多様な資源利用:

- コンフリクト(葛藤)

→人間と動植物、人間と人間

⇒通時代的に, 利害調整が必要。

I 年表の視角

1. 自然自体の変動

▼天保年中に「クスサンの大発生」による栗・櫛の枯死(1830-44)の記録が残る。

* 但し、クスサンに枯らす力はない: 本州日本海側の森林を中心とする「ナラ枯れ」が江戸時代末期に発生?

→カシノナガキクイムシ: 養菌性。集団枯損の原因となる。

▼19世紀頃から凶作。畑作物・木の実の実らない年が出てくる(天候不順が続く?)

2.人間の経済活動による、自然の改変

(1)人口激増(18世紀・・・世帯3倍増)

→近世中期以降、焼畑の拡大。→奥地化？

また、百姓による伐り尽し(木工素材の枯渇)

・山林争論の開始→越後側住民による伐り尽し

⇒資源枯渇。新たな材料・製品開発(近世～現代)

(2)近代以降:

a.米の価値上昇

→水田開発→水田荒廃→作付面積の変化

b.焼畑の価値・必要性の低下

→植林地への転換→植林地の手入れ放棄

3.各ガバナンスレベルでのルール変化

(1) 巢鷹山をめぐるルール（近世）

- 巢鷹山では、森林資源の利用に様々な規制
⇒「使わせない」という規制のロジック。

＝集団同士のコンフリクトの際、一方が越境して伐り尽しを行うことに対し、「巢鷹山」という制度を口実として、他領住人の侵入を禁止しようとする。

周辺住人にとっての意味、山地利用に及ぼす実際の影響
→人と自然の関係の具体相。

支配層＝幕府：鷹献上の停止と再開

地域住民層：停止期間中に越後側の住民による山林侵入。
停止再開後に、信州側との争論激化

→巢鷹山の保護命令

⇒近代：巢鷹山の廃止とともに伐採・開発された地域も。

(2)生活様式（近世～近現代）

地域住民層～家、個人のレベル：

→山地資源の利用の変化、生活様式の変容

※狩猟技術、狩猟範囲の拡大（文政年間～？）

人間による山への介入が減少：高度経済成長～

→山菜・茸など採取資源の利用が減少、野生動物
の人里進出。

Ⅱ 年表化するデータ

(1)年代ベース

=文献史料等による年表化が可能なデータ

・人口総計

・世帯総計

基盤データ

・支配

・巢鷹山管理史

・山林争論（巢鷹山争論）

古文書、聞き取り調査データ

※基本的に史料1点ベースでの年表化。
追加調査中。

=地域を超えたコンフリクト

・山地資源の利用と生業

・生業と生活様式の変容（近世～近現代）→ 文献史料、聞き取り調査による

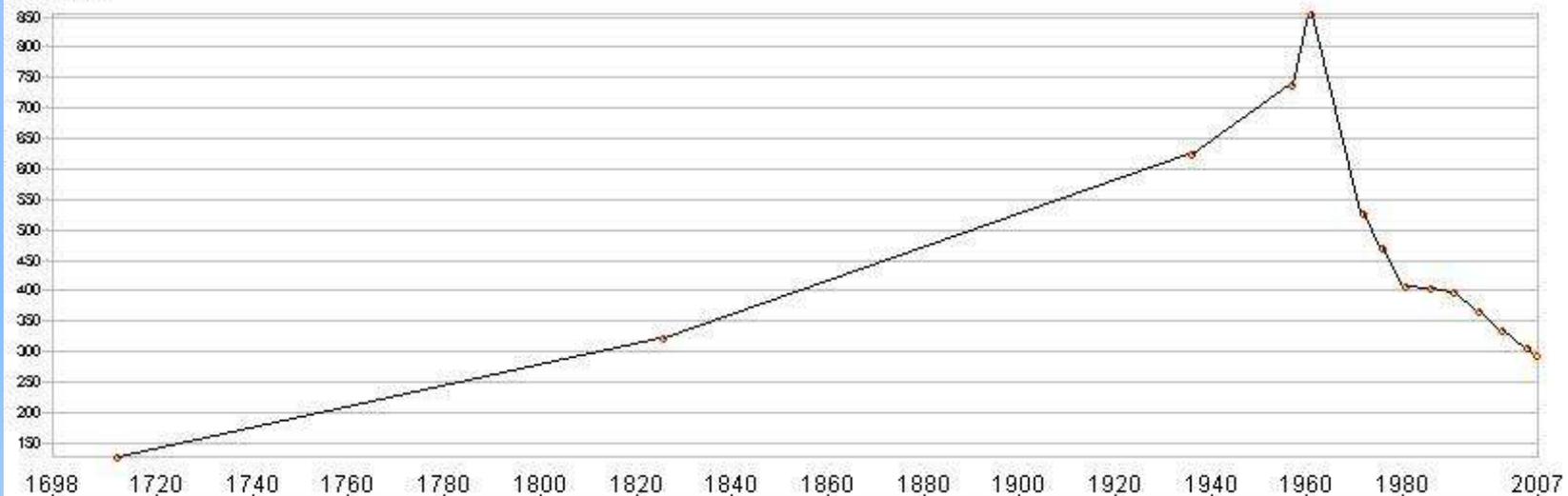
・他の参考資料（候補）...

藤木久志編『日本災害史年表稿』（2009）→災害史

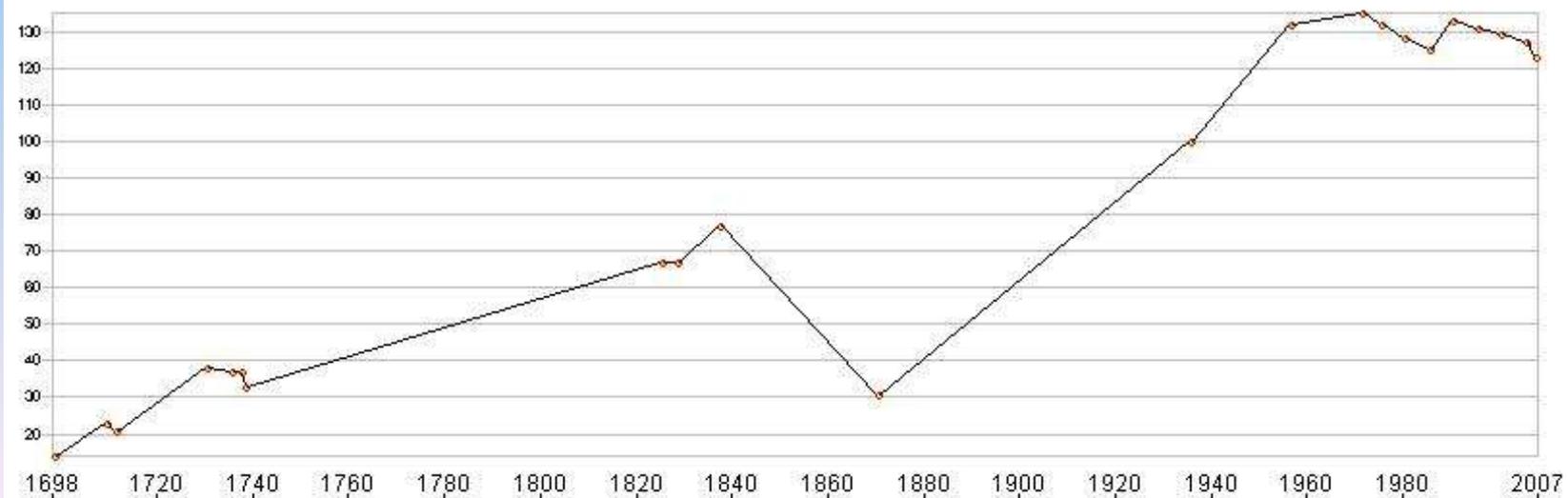
田口洋美『マタギを追う旅』（1999）→「秋山郷集落の変遷」年表（秋山集落人口・世帯数の変遷を年表フローチャート化）他の情報

基盤データ: 人口と世帯の総計 (t2map出力)

人口総計



世帯総計



▼特に、近代以降で次のような基盤データの追加
→市川健夫『平家の谷』(令文社1961)所収年表etc
※ただし米作・養蚕が生活史の軸となっている。

＋栄村史、栄村役場関係資料？

* 市川1961年表の情報；

- ・作柄
- ・相場(米価、繭価)→景気の良し悪し
- ・降雪量
- ・豊作・凶作
- ・霜害・冷害
- ・生活・生業様式の変化etc...

→また戸籍制度や学校教育等、近代的な制度整備に関する基本的データを入れる必要。

⇒但し、集めるデータの視角を絞り、網羅的・総花的なものは目指さない。

(2)非年代ベース

- 非年代ベースに基づく研究成果について
→各班ではどのように対処していますか？

正確な年代表現の困難なケースの処理

→変化が緩やかなもの。

ex1.中津川の地形発達史の扱い方

⇒地形形成の歴史が、人間の土地利用をどう規定するか、等の視点が必要と思われる。

ex2.聞き取り調査に基づくデータ

⇒「19××年頃…」 「近世～明治初期」の様にスパンが広いもの。

第5巻『山と森の環境史』該当章

序章 〈山と森〉の環境史年表 池谷和信・白水 智

第Ⅰ部 山地の自然史

第1章 山村の地形形成と土地利用 長谷川裕彦

第2章 生物多様性と人間の森林利用 辻野亮

第Ⅱ部 藩政期における多様な山地利用と社会制度

第5章 巢鷹をめぐる信越国境地域の山地利用と規制 荒垣恒明

第8章 近世山村における生業・生活の変遷と資源利用 白水智

第Ⅲ部 明治以降における山地の自然資源利用の変遷

第9章 東北・中部における獣猟のありかたの比較と変遷 田口洋美

第10章 木材資源利用からみた森林環境の変化とシカ 小山泰弘

第11章 林野利用の変遷と山村生活 関戸明子

第12章 木工品製作の変遷と山地資源 井上卓哉

第Ⅳ部 現在の森林環境と人間

第14章 人間活動からみた植物と人間とのかかわり 井上卓哉・池谷和信・岡恵介

コラム2 信越国境秋山地域の生活と山 吉村郊子

終章 山と森の「賢明な利用」と重層する環境ガバナンス 白水智・池谷和信

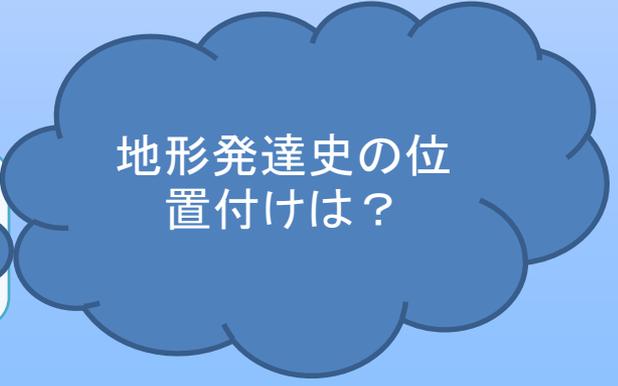


序章 + 終章



新第三紀
~
中期更新世以降

第1章 山村の地形形成と土地利用 長谷川裕彦



地形発達史の位置付けは？



前近代
13~18C

第5章 巢鷹をめぐる信越国境地域の山地利用と規制 荒垣恒明
第8章 近世山村における生業・生活の変遷と資源利用 白水智



近現代
19C~

第2章 生物多様性と人間の森林利用 辻野亮
第9章 東北・中部における獣猟のありかたの比較と変遷 田口洋美
第10章 木材資源利用からみた森林環境の変化とシカ 小山泰弘
第11章 林野利用の変遷と山村生活 関戸明子
第12章 木工品製作の変遷と山地資源 井上卓哉
コラム2 信越国境秋山地域の生活と山 吉村郊子



第三紀～中期更新世以降

中津川流域の地形発達史
地すべり地形 河成段丘

前近代
(～19C)

巢鷹山管理史
信越国境相論

生業
生活様式
森林資源(生物資源)利用

近現代
(19C)

林野利用

造林
森林遷移

木工品制作
食用植物
狩猟用罟

植物種多様性
生物多様性
森林利用タイプ

時代性 (&地域性) / 普遍性 (時代間の通底性)
→ 持続と破綻のせめぎ合い… 近代にも連続? 何が変化 / 不変か。

〈新第三紀

～中期更新世
以降〉

- ・ 中津川流域の地形発達史
- ・ 多雪中級山岳
- ・ 地すべり地形
- ・ 河成段丘

〈前近代〉

- ・ 文書史料による歴史情報
- ・ 巢鷹山管理史
- ・ 信越国境相論
- ・ 生業・生活と森林資源 (生物資源) 利用
- ・ 自然自体の変動

〈近現代〉

- ・ 冷温帯落葉樹林
- ・ 植物種多様性
- ・ 造林・森林遷移
- ・ 林野 (植林地) 利用
- ・ 木工品制作
- ・ 食用植物 (その採集方法も含む)
- ・ 燃料革命
- ・ 生活様式の変容 (高度成長期～)
- ・ 稲作、養蚕、観光業

政治体制 (政治的ガバナンス)
社会体制の変動

Ⅲ ケーススタディ

(1)秋山地域の生活史(戦前・戦後)

※[関戸2008]より。

和暦	年代	西暦	できごと
大正	11-13年	1922-24	中津川発電所の工事で好景気
昭和	14年	1939	屋敷に電気が入る
	16年	1941	小赤沢までトラックが初めて入る
	21年	1946	小赤沢に電気が入る
	27年	1952	上ノ原に電気が入る
	28年	1953	切明までトラック道路完成
	29年	1954	和山に電気が入る
	30年	1955	切明発電所の完成、工事にともなう現金収入
	34年	1959	秋山地区に有線電話が開通
	39年	1964	小赤沢までバスの運行が始まる
	45年	1970	秋山地区ブルドーザー除雪開始
	47年	1972	切明に温泉保養センター雄川閣開設

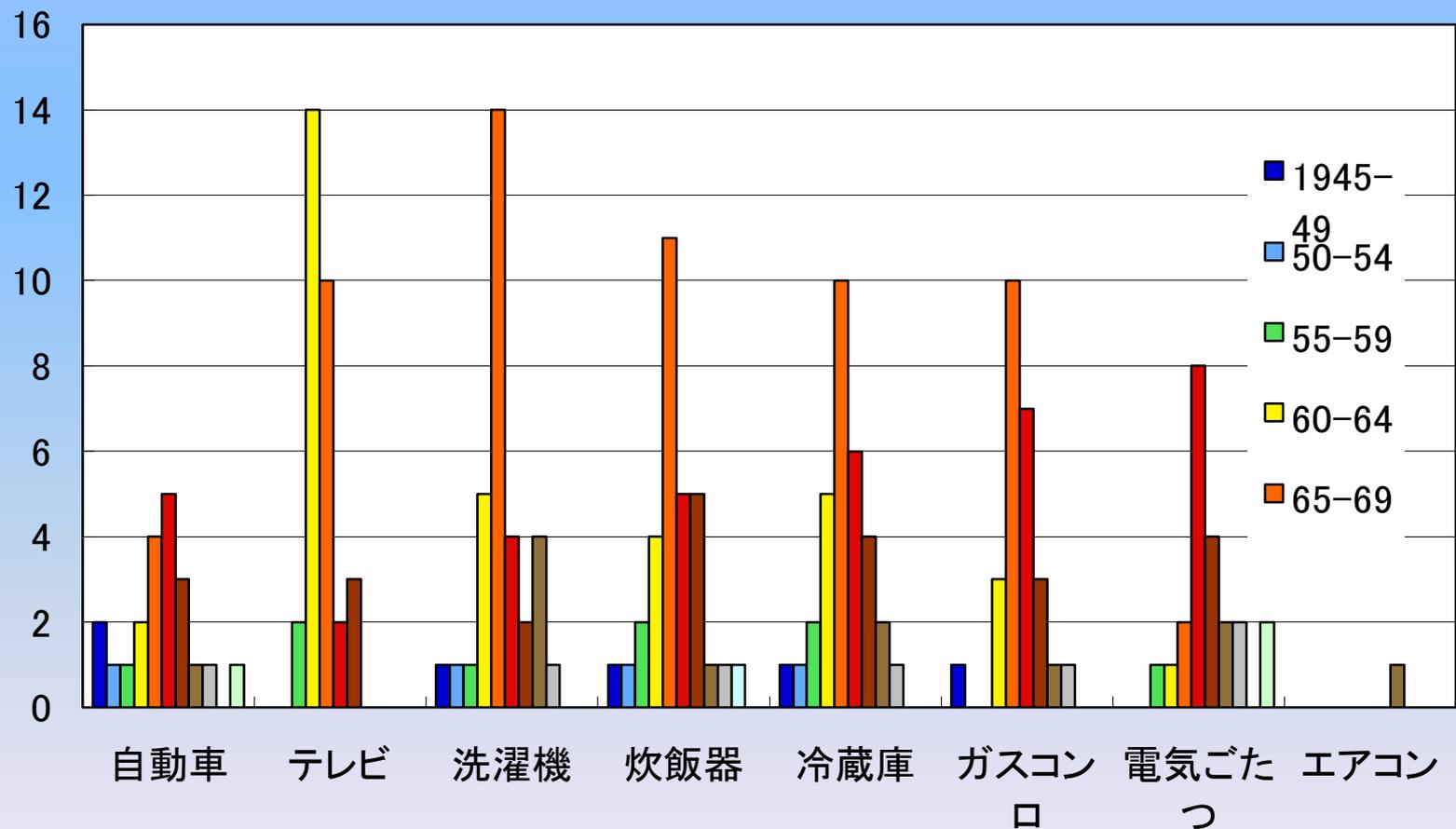
秋山地域の生活史（戦前・戦後）

和暦	年代	西暦	できごと
昭和	49年	1974	秋山郷観光協会設立
	50年	1975	小赤沢で焼畑が20年ぶりに復活
	53年	1978	奥志賀スーパー林道全線開通
	54年	1979	和山に温泉引湯
	60年	1985	小赤沢に温泉保養センター楽養館開設
平成	元年	1989	上ノ原にのよさの里開設
	3年	1991	県無形文化財に「秋山郷の焼畑耕作」選択

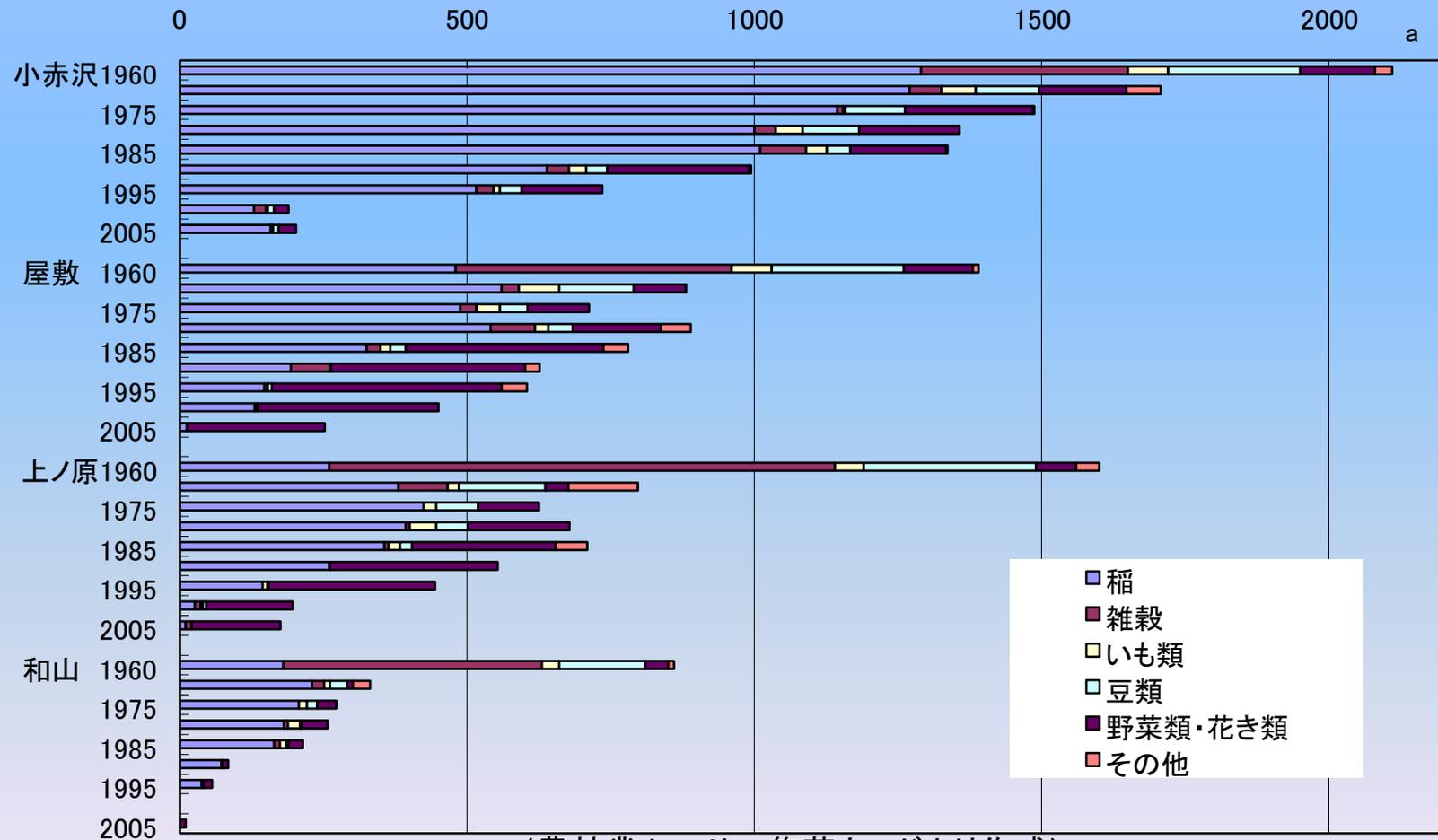
市川健夫(1991)『平家の谷―秘境秋山郷』、栄村役場資料より作成

(2)近現代の生活様式変化

※基礎データ:[関戸2008]



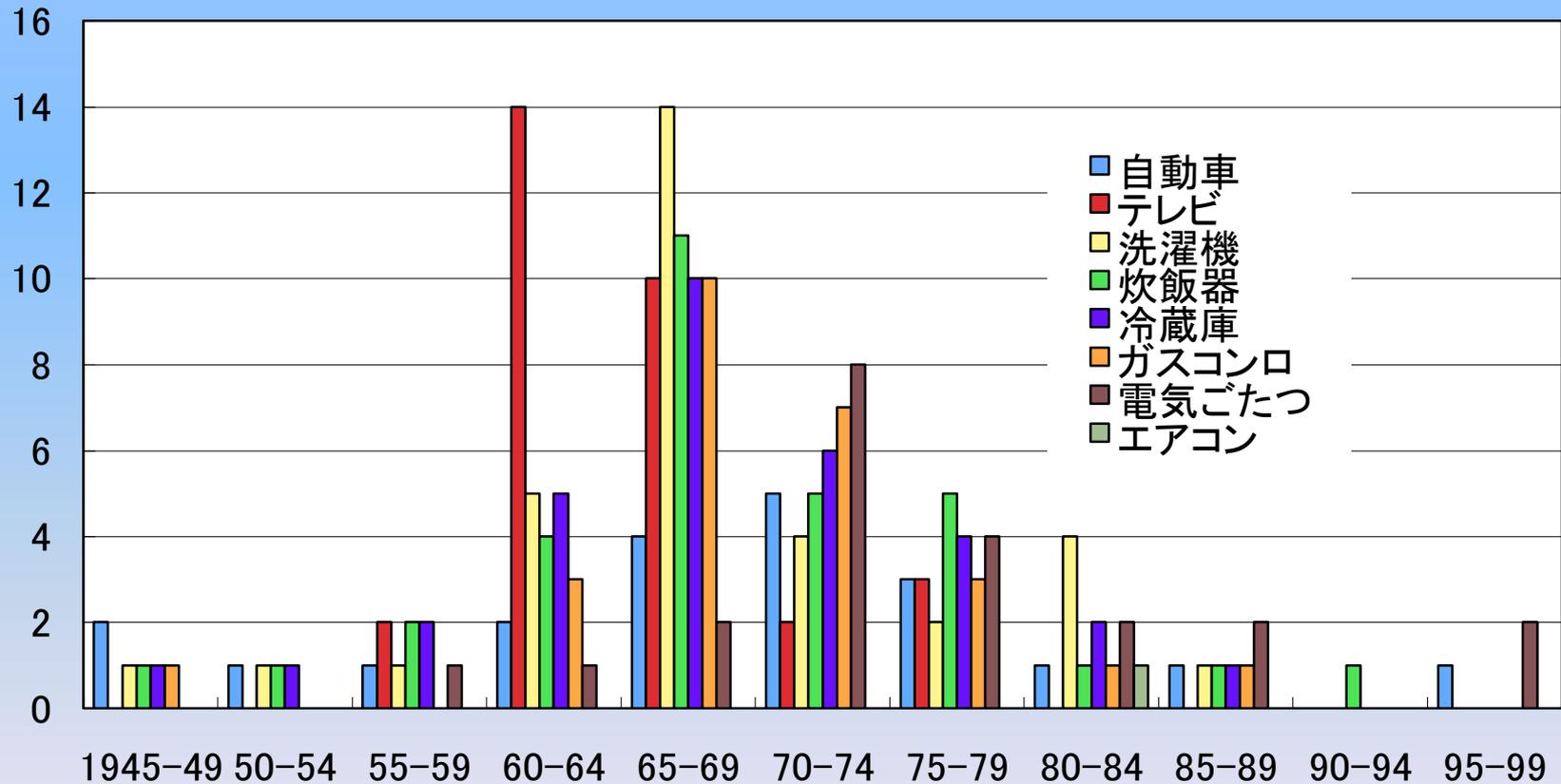
作付面積の推移(集落別)



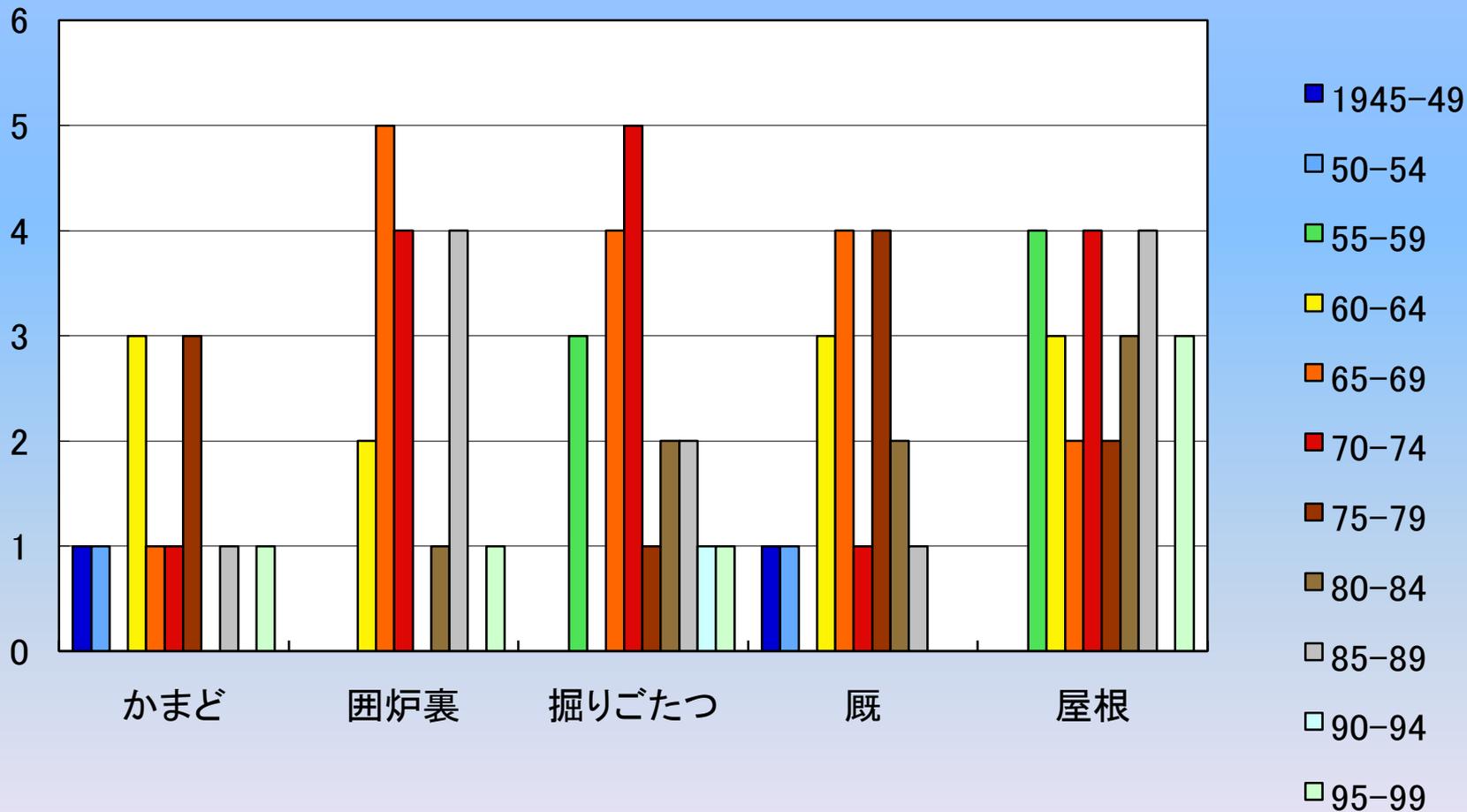
(農林業センサス集落カードより作成)

1990年以降は販売農家の作付面積

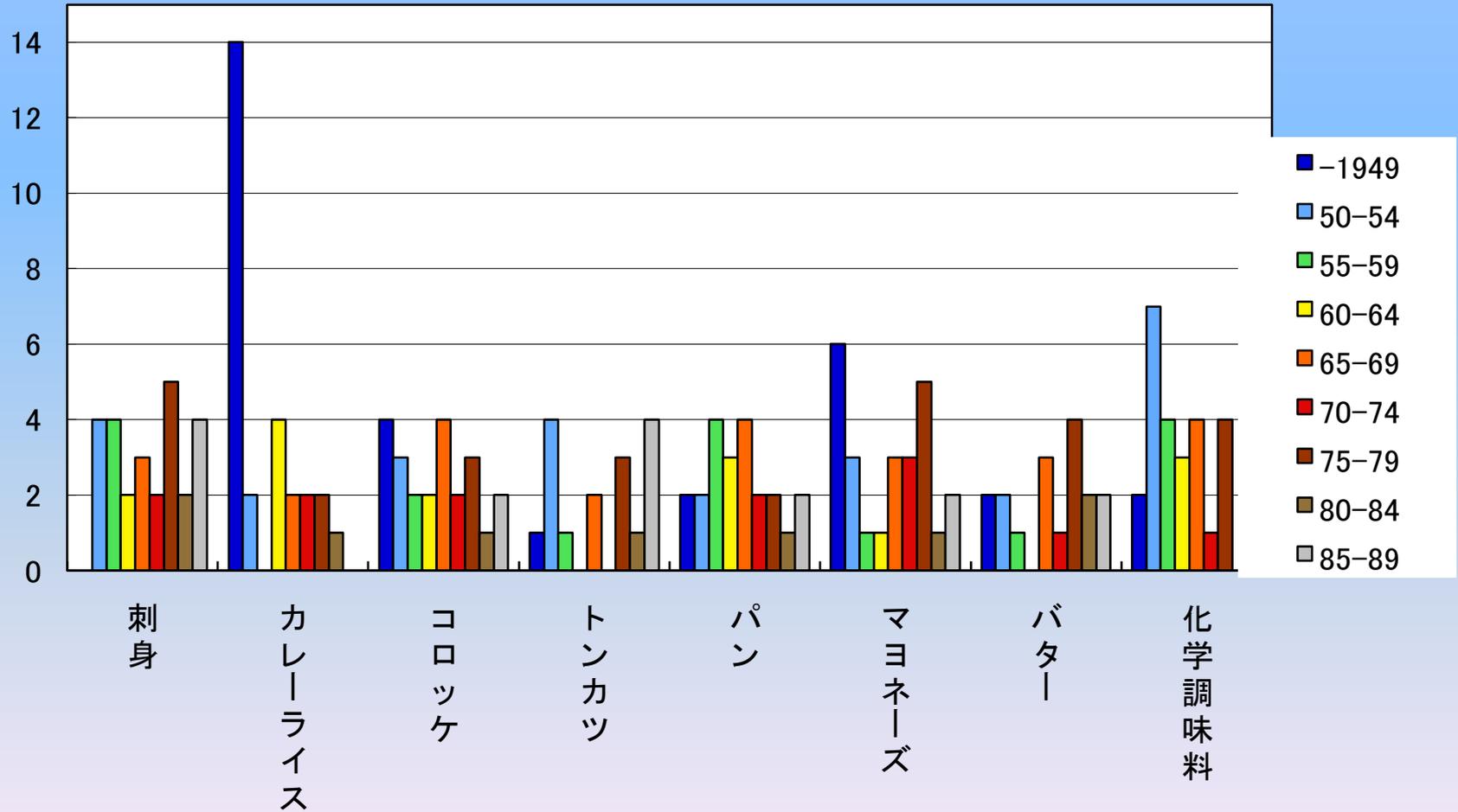
耐久消費財の導入時期



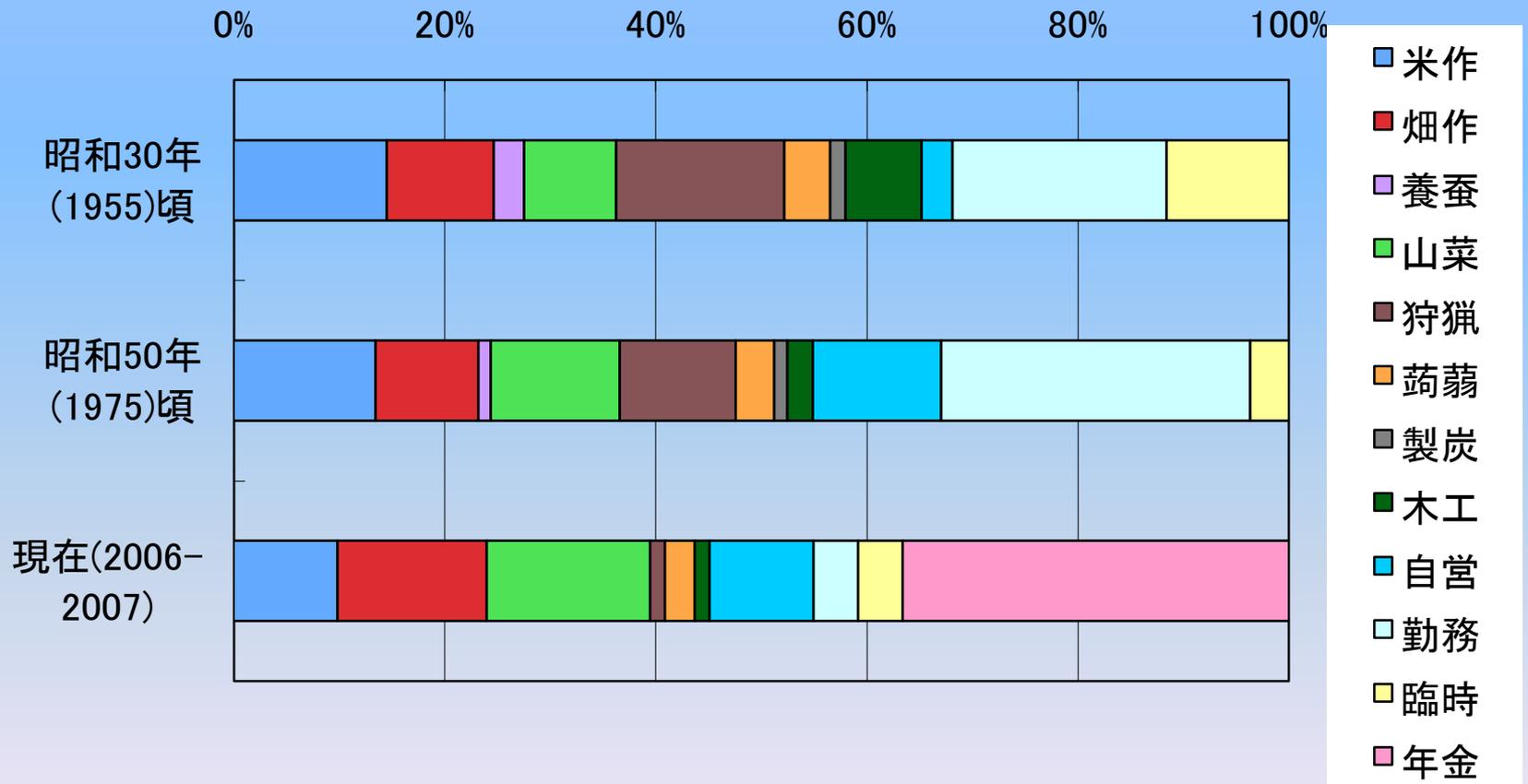
伝統的家屋形態の廃止



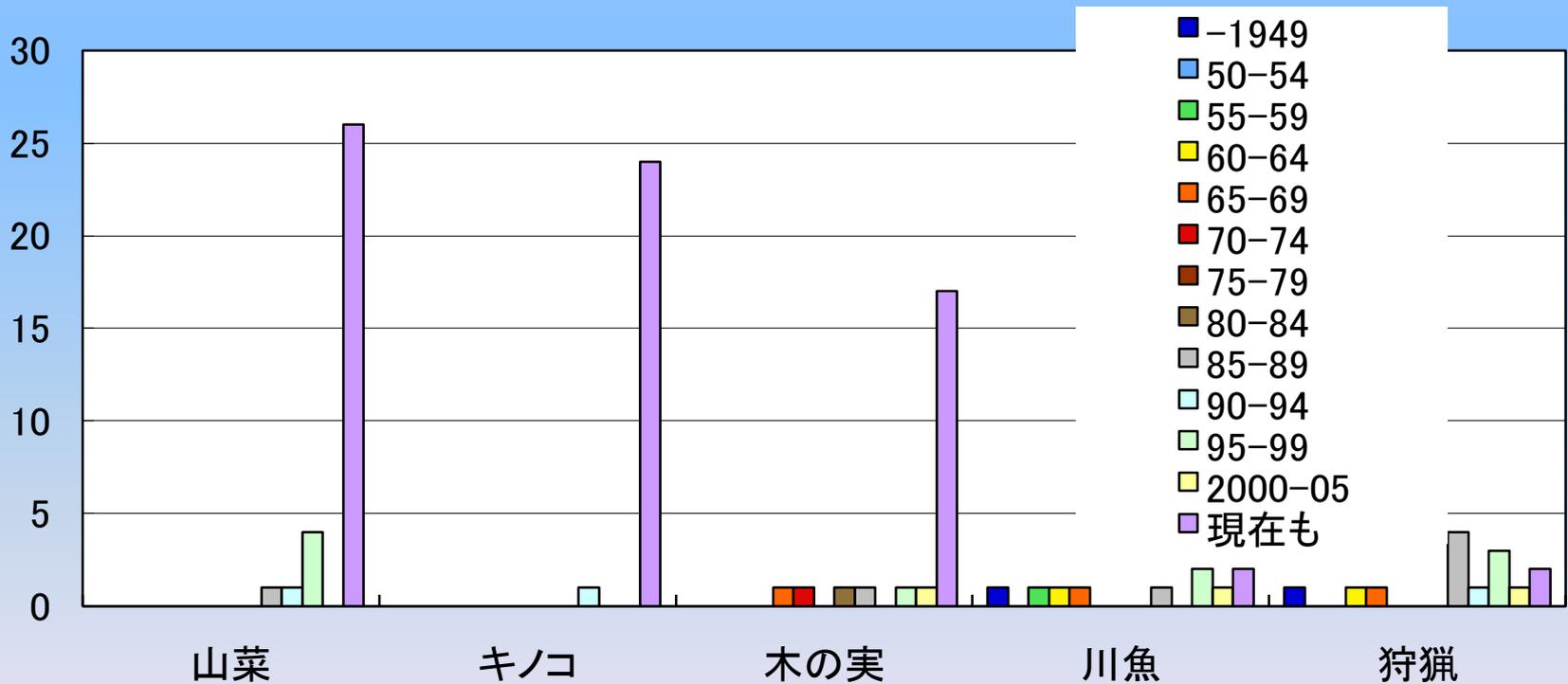
新しい食事・食品



生業の変化



生業の中止



(3)山地資源の利用

※基礎データ:[井上2008]



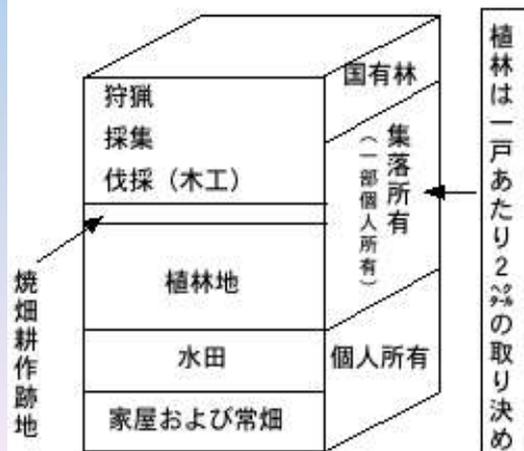
①江戸時代から明治初期



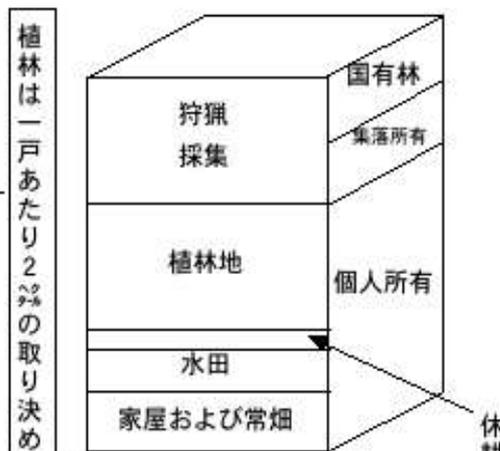
②明治初期から戦後



③昭和30~40年代



④昭和50年頃



⑤昭和末期から現在

